



菅野 望

西欧第一課長

菅野 望

国際報道課長

海部総理訪欧 応答要領作成依頼

イリア 国営テレビ (RAI 1) による総理インタビュー

平2.1.8 国際報道課

海部総理は、13日 ロマにおいて、本件インタビューに応じる
予定であるところ、ついでに先方より提出された 質問事項の
対する 応答要領を作成の上、11日(水)の正午までに
当課 石川 (EX. 3181) まで 提出願います。

○ 先方質問事項

(1) 現在欧米の日常生活に日本製品が過剰に浸透しているが、こうした「太平洋からの侵入」は経済圏のみの現象と見てよいか、むしろ日本が世界の政治大国となる可能性があるか？ 指企

(2) 総理のお考えでは、「経済大国」と「政治大国」の相違点には何があるか？ 指企

(3) 先月 24 日 2 ツツエ・ゴルバチョフ会談が行われたが、この 2 大国のみが東面を代表するというのは時代錯誤ではないか？ この会談を世界一の経済力を誇る日本は^{と看做される}どう見ているのか？ 指企 (米・欧ソ)

(4) 日本と欧州の将来は予測し難い面が多分にあるが、両者が世界の均衡に果たすべき共通の役割があると思われるか？ (欧西)

(5) 新らゆる巨人は弱点を帯びているが、日本の弱点は何か？

答. 現下の東欧諸国の改革の動きは、自由と民主主義及び市場経済を目指すものであり、戦後の国際秩序

の基本的構造に影響を与え^待るもの。欧州は、そのような東欧諸国の動きに加え、EC統合が

具体化し、その一体性を強化しつつあり、^{その}重要性を高め
ており、我が国はこれを歓迎。

而政や北米諸国と同じく、自由と民主主義という価値感及び
市場経済の創成を志向する
このような中で、我が国は^{北米諸国と協力して}欧州諸国、米国とも
ともに協力して、東欧諸国の改革の^{努力}を支援する

等々あり、新しい^の発展及び世界の安定と繁栄のため
に、国際秩序の安定化のため貢献して行く
ことと見做すと思料。かかる観点から、我が国は、

東欧諸国のより一層の発展を促して参りたい。

我

※総第

※昭和 年 時 月 分 日 秒 受付

暗 ・ 略

電 信 案

電信課長

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 外務報道官 報道・広報担当参事官 国際報道課長 首席事務官	※発電係 1 2 起案 昭和 2 年 1 月 10 日 起案者 電話番号 石川 3181
	協議先 向1, 3 - 播磨 播磨 向4 - 西田 西田 向2.5 - 原隆 原隆	

(※印欄内は電信課記入)

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在	ベルギー (UUUUU 総理)	大使 総領事 へて	外務大臣 発
件名	総理訪欧 (外対策 : 何ア国営テレビ・インタビュー)		
主管・文書記号	※電番	大至急 至急 普通 (優先処理)	パターン・コード
報際	△		
転電 転送 転報	在 伊, 伊	※転電番号	大至急 至急 普通 (優先処理)
(八〇字) ↓			
※			

(昭和六二・一〇・六改正)

GB-1

外 務 省

回覧番号

(三三〇字)

V V V V V (総理)

伊宛往電報際ヲ1885号及び伊来電ヲ43号
に因し、

1. イタリア国営ラレ心の総理インウビエ
一(13日午後)用応答要領案を別FAX信にて
送付する。
(~~原由(2), (5)に於ては作成せず。~~)

~~2. 其の原由のうち~~

伊, 仏に転電した。

(3)

我

※総第

※昭和 年 月 日 暗・略
時 分 秒 受付

電 信 案

電信課長

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 外務報道官 報道・広報担当参事官 国際報道課長 首席事務官	※発電係 1 2 起案 昭和 2 年 1 月 10 日 起案者 電話番号 石川 3181
	協議先 西欧カーネル長	

(※印欄内は電信課記入)

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在	ベルギー (VVVVV 総理)	大使 総領事 へて	外務大臣 発
件名	総理訪欧 (外対対策: 1997 国営テレビ・インタビュー)		
主管・文書記号	※電番	大至急 至急 普通 (優先処理)	パターン・コード
転電 転送 在 伊 伊	※転電番号	大使・総領事へて	至急 普通 (優先処理)
往電報際才△ 号別 FAX 信。			
↓			
※			

(八〇字)

(昭和六二・一〇・六改正)

イタリア国営テレビによる海部総理インタビュー
(応答要領)

問1. 現在の欧米の日常生活に日本製品が浸透しているが、こうした「太平洋からの侵入」は経済面のみ現実と見てよいのか。もしくは日本が世界の政治大国となる可能性があるのか。

答1. わが国は先進民主主義国の主要な一員として、世界の平和を強化し繁栄を維持するため、新しい国際秩序の形成に貢献する責任を負っていると認識しており、この意味でわが国は経済的役割と共に政治的役割を果たさざるを得ないと考えている。

2. この新しい国際秩序の形成において、わが国は決して他国の犠牲の下に自国の繁栄を図るつもりはないし、相互依存関係の深まっている今日、その様なことは不可能であると考えます。

3. わが国はすべての国が共に繁栄できるような新しい国際秩序を造り上げるためには、先進民主主義諸国間の協調と協力関係が前提であると考えており、この意味でも貴国との友好関係を更に強化することを望んでいる。

問2. 総理のお考えでは、「経済大国」と「政治大国」の相違はいかなる点にあるか。

答. 現在の世界において、経済力は必然的に政治責任を伴う。

我が国は軍事大国にならないとの方針を堅持しているが、世界のGNPの1割を優に超える経済力を有する国として、新しい世界秩序の構築、世界の平和と安定のために、軍事以外の分野で自らも汗をかき貢献していく考え。東欧改革への貢献と日欧協力の強化を目的とした今次訪欧もかかる考えに基づくもの。

問3. 先にマルタでブッシュ・ゴルバチョフ会談が行われたが、この2大国のみが東西を代表するというのは時代錯誤ではないのか。この会談を世界一の経済力を有すると考えられている日本はどうみているのか。

答1. 戦後の東西関係において米ソ両国が、「代表」というかどうか別にして、もその陣営のリーダーとしての役割を果たしており、今日の国際社会においても超大国たる米ソ両国間の関係が世界の平和と安定にとり極めて重要なことは厳然たる事実。

また、西側安全保障問題は不可分の問題であり、ヨーロッパ、アジア・太平洋を含めたグローバルな見地から判断する要あり。

2. 国際社会は現在大きな変化の最中。東西の対立構造は変貌しつつあり、明るい展望が開けつつある中で、同時に不確実性をも内包。かかる現状を背景としてマルタ会談が行われ、米ソ首脳間に個人的信頼関係が強化されると共に、双方が両国関係の「新時代」入りを表明し、新たな関係構築の模索を開始したことは、我が国としても世界の平和と安定への貢献の見地から高く評価。

3. 変化しつつある世界の中で我が国としては、経済力と技術力を中心とした国際秩序の主要な担い手としても責任を自覚。西側先進民主主義諸国との密接な協議、協調を通じ、世界全体がより強固な平和とより一層の繁栄を享受できるよう我が国としての貢献を行っていく所存。

問4. 日本と欧州の将来は予測しがたい面が多分にあるが、日・欧両者が世界の均衡のために果たすべき共通の役割があると思われるか。

答. 現下の東欧諸国の改革の動きは、自由と民主主義及び市場経済を目指すものであり、戦後の国際秩序の基本的構造に影響を与え得るもの。欧州は、そのような東欧諸国の動きに加え、EC統合が具体化し、その一体性を強化しつつある。このような中で西欧や北米諸国と同じく、自由と民主主義という価値観及び市場経済という制度を共有するわが国は、これら諸国と協力しつつ、東欧諸国の改革の努力を支援すること等を通じ、新しい国際秩序の形成及び世界の安定と繁栄のために貢献していくことができると思料。かかる観点より、わが国としては、日欧関係のより一層の緊密化を図って参りたい。

問5. あらゆる巨人は弱点を持っているが、日本の弱点は何か。

答. 今日の我が国の平和と繁栄は自由と民主主義、市場経済という共通の理念を保持する西側諸国の協力と相互依存関係の中でもたらされたもの。

もはやいかなる巨人も孤立の中で生きていくことができないことは最近の東西関係の激変からも明らか。

我が国としても、21世紀の新たな世界秩序の構築に向けて、欧州、米との協力を強化しつつ積極的に貢献していきたい。